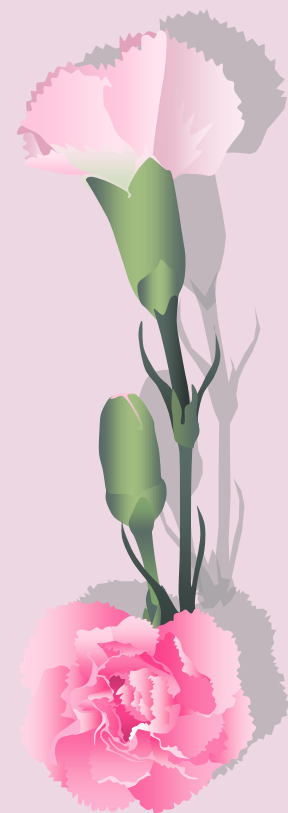


令和5年度 横浜市立笹野台小学校 学校経営方針

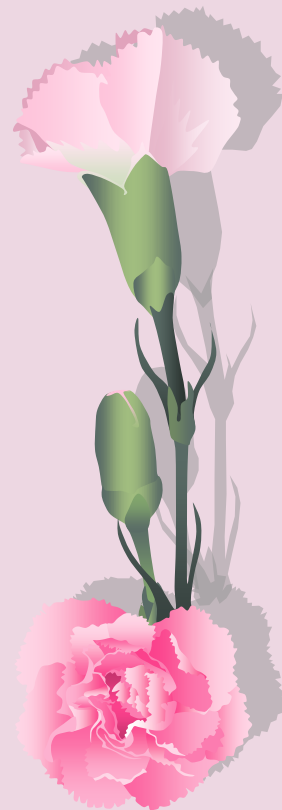


学校経営方針 目次

- 1 教育活動の方針
- 2 本年度の具体的取り組み
 - ◇学校紹介(ホームページより)
 - ◇学力向上について
 - ◇健やかな体の育成について
 - ◇豊かな心の育成について
 - ◇今年度の重点研究について



Ⅰ 教育活動の方針

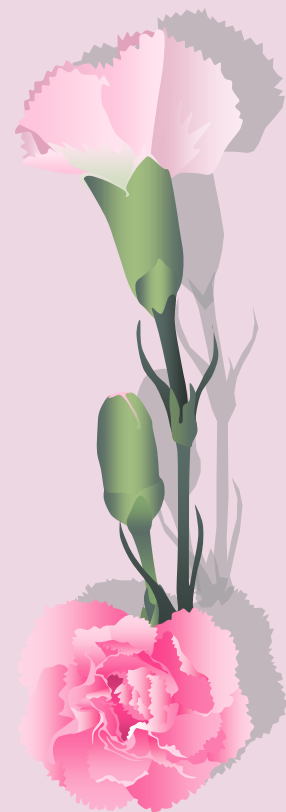


【横浜の教育が目指す人づくり】

自ら学び 社会とつながり
ともに未来を創る人

横浜の教育が育む力

知 生きてはたらく知
徳 豊かな心
体 健やかな体
公 公共心と社会参画
開 未来を拓く志



横浜の教育の方向性

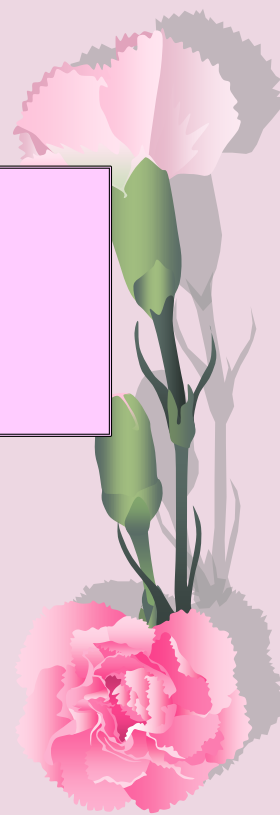
- ① 子どもの可能性を広げます
- ② 魅力ある学校をつくります
- ③ 豊かな教育環境を整えます
- ④ 社会全体で子どもを育みます



希望が丘中学校ブロックの教育目標
「9年間で育てる子ども像」



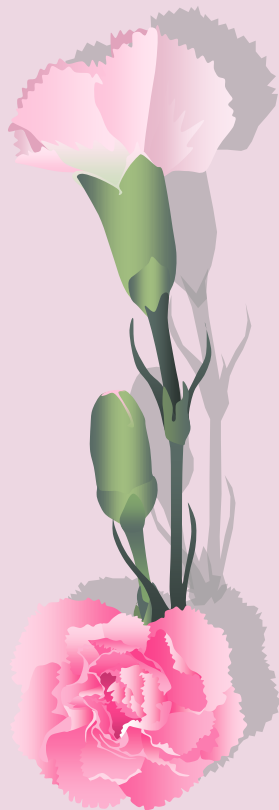
笹野台小学校教育活動の方針へ



【学校教育目標】

希望が丘中学校ブロックの
「9年間で育てる子ども像」

- ① 課題に柔軟に向き合い、主体的に学び続ける子ども
- ② 互いを認め合い、社会との関わりを大切にする子ども
- ③ 目標に向かってチャレンジし、自信をもって行動できる子ども



【笹野台小学校学校教育目標】

「元気いっぱい やさしさいっぱい 笑顔いっぱい
心かがやく笹小キッズ」

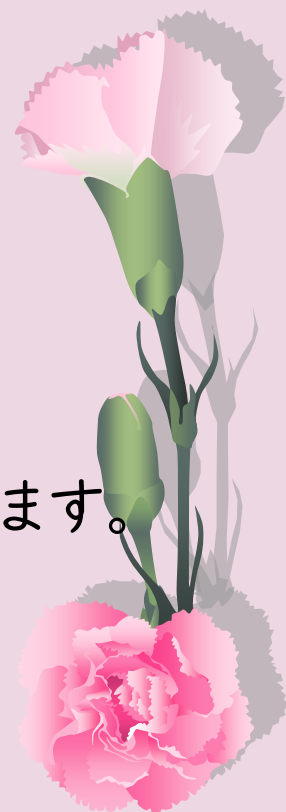
知:自分の考えを表現する子を育てます。

徳:思いやりの心をもった子を育てます。

体:心身ともにたくましい子を育てます。

公:様々な人や地域との関わりを大切にできる子を育てます。

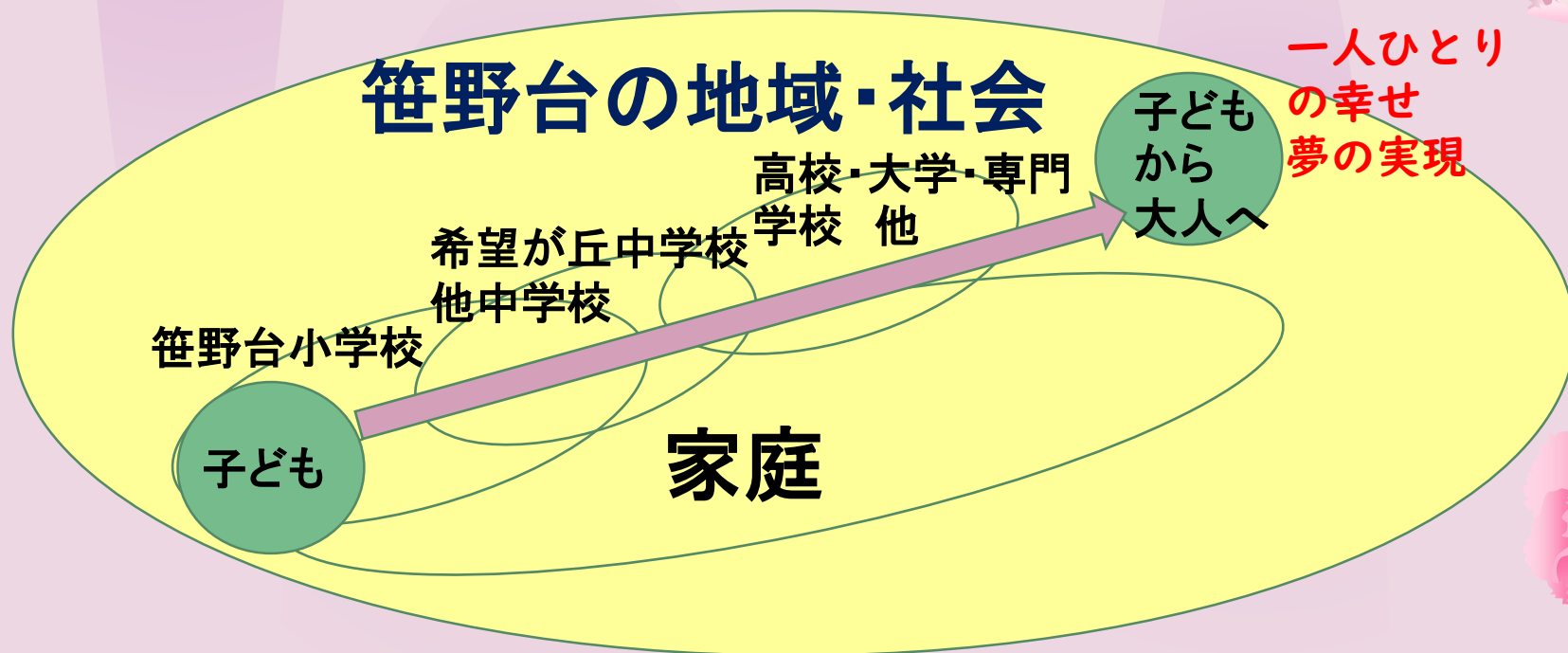
開:社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。



【こんな笹野台小学校を目指します】

☆学校・家庭・笹野台の地域の方々と連携して、
子どもたちを育てます。

☆子どもたちが幸せになるために必要な基礎・
基本の力を身に付けるようにします。



【子どもが幸せになるための教育 = 子どもファースト】

- ①一人ひとりが認められ、自分の居場所がある。
- ②差別のない人間関係が育っている。
- ③教師と子ども、教師と保護者、学校と地域との信頼関係が存在している。
- ④当たり前前の方が当たり前前にできる力が身についている。
- ⑤教育の質が落ちない持続可能な学校組織である。
- ⑥目先の「楽(らく)」に流されず、夢の実現のために努力できるように促している。
- ⑦子どもの安全を第一に考え、学校施設の点検と修繕を行っている。



【一人ひとりが認められ、自分の居場所がある。】

○一人ひとりを大切に育てる意識の向上を図るため研修を行い、人権感覚を磨き続ける。

☆いじめは絶対に許さないという風土の醸成

→笹野台小学校いじめ防止基本方針に則り、全職員参加で月に一度いじめ防止対策委員会を開く。

→気になる案件や子どもの変化に気付いた職員がいれば全職員で共有し対策を講じる。

(チェック機能を働かせる)

☆特別支援教育の充実・センター的機能の活用・関係機関との連携を図る。



【当たり前前の方が当たり前前にできるとは①】

○話をしっかりと聞く習慣が身に付いている。

→自分勝手な子が少ない。

○一生懸命掃除に取り組む子が多い。

→物を大切にする子が多い。

○給食をしっかりと食べる子が多い。

→健康のよさに気づいたり集中して物事に
取り組んだりする子が多い。

○友達と声をそろえて一生懸命に歌う子どもが
たくさんいる。

→表現力と協調性の育ち。

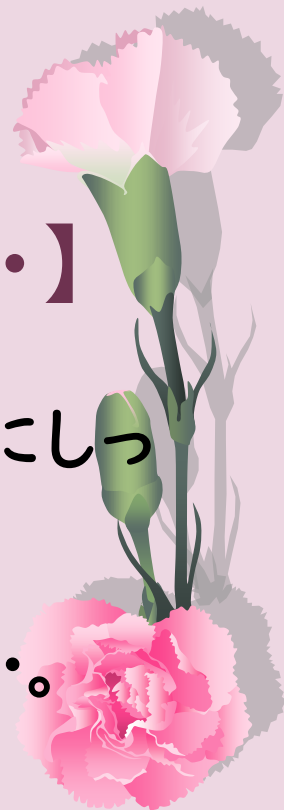


【当たり前のことが当たり前に行けるとは②】

- 自分の名前を呼ばれたら、「はい」としっかり返事ができる。(授業中はもちろんのこと、朝会や集会など全校のみんなの前でも)
- 気持ちのよい挨拶ができる。
→よりよい人間関係の構築。

【当たり前のことが当たり前に行けると…】

- 相手のことを考えながらも自分の思いを相手にしっかり伝えられる子どもに…。
- 失敗を恐れずに、何事にも挑戦する子どもに…。



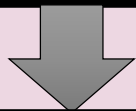
【笹野台小学校ポストコロナ時代】

【昨年度まで】

○できなかったこと

- ・公共交通機関を使って出かけ多くの人と関わること（全てバス利用）
- ・室内での大人数での活動 など

【今年度】



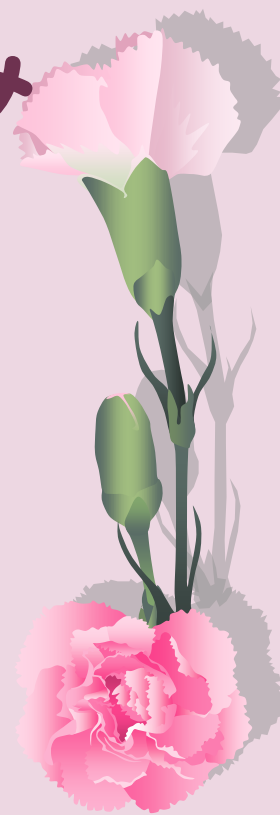
○可能な限り多くの人との繋がり（Connection）・交流

（Communication）・挑戦（Challenge）の3Cを実践していきます。

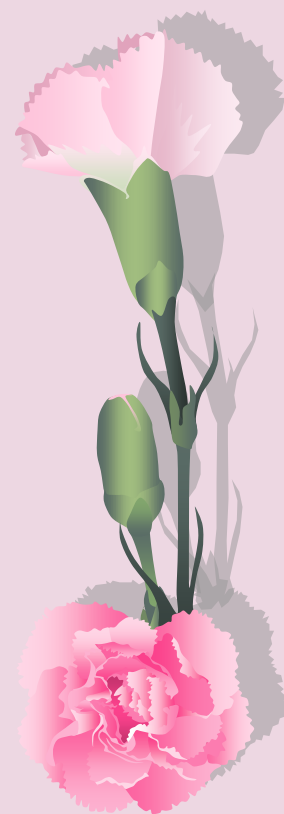
- ・地域の方々との交流
- ・バスだけでなく公共交通機関を利用した校外学習
- ・卒業式等行事や活動に人数制限なし。

トラブルはチャンス「トラちゃん」を合言葉に！子どもたちが幸せになるため、あきらめずに夢に向かえるようにしたい。行事や活動が子どもを大きく成長させます。失敗してもそれを糧に、何事にも前向きに取り組んでいけるようにします。

2 本年度の具体的な取り組み



学校紹介について



学校ホームページ

笹野台小学校

検索



学校の行事や出来事、教職員の様子などをホームページ内の「学校日記」を月2回程度、更新しています。

「6年生」から「卒業生」へ～卒業証書授与式～【6年生・卒業生】

2023年3月17日

3月17日、卒業式は滞りなく終わることができました。



定刻で始まった卒業式、予定していた時刻ぴったりに終わりました。作法の練習、歌の練習をこの日のためにしっかりやっていたからだと思います。



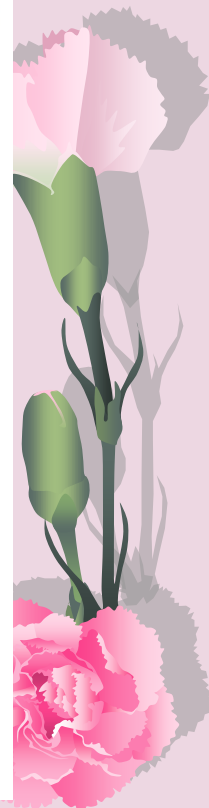
入学式準備

2023年4月7日

令和5年度がはじまります。今年度はホームページを担当で分担しながら、月2回程度、様々な視点で笹小の出来事をお知らせします。

笹野台小学校教職員一同、子どもたちのためにできる限りのことを頑張っていきますので、地域の皆様、保護者の皆様、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

新6年生が入学してくる一年生のために、教室や下駄箱、体育館の準備をしてくれました。笹小のリーダーとして声を掛け合いながら活動していました。



学校メール配信と同様の内容をホームページに掲載することもありますので「お気に入り」登録をお願いします。



横浜市立
笹野台小学校
Sasanodai Elementary School

ホーム

- 学校紹介
- 学校経営
- 学校だより
- 学校日記
- 教育相談
- 災害時の対応
- 転入学について
- 笹野台小学校PTA
- GIGAスクール関係
- 笹野台小50周年
- 学校説明会

136043
お問い合わせ先
〒: 241-0816
住所: 横浜市旭区笹野台4丁目48-1
電話: 045-362-0450
FAX: 045-362-0401
地図: [アクセス](#)

@yokohama_kyou
iさんのツイート

ようこそ、笹野台小学校ホームページへ！
子どもたちの様子や教職員の様子は、「[学校日記](#)」に随時掲載していますので、ぜひご覧ください。

年間行事予定や災害時の対応、転入学の手続きなども掲載してありますので、何かありましたら参照してください。

よろしく申し上げます。





元気いっぱい
やさしさ いっぱい
笑顔いっぱい
心かがやく 笹小キッズ
(よりよく生きる力)

そのために

三つのプラン

「知」

生きてはたらく知



学力向上
アクションプラン

「徳」

豊かな心



豊かな心の
育成推進プラン

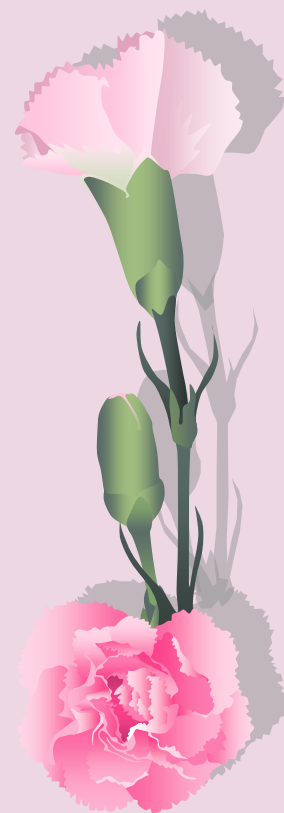
「体」

健やかな体



健やかな体の
育成プラン

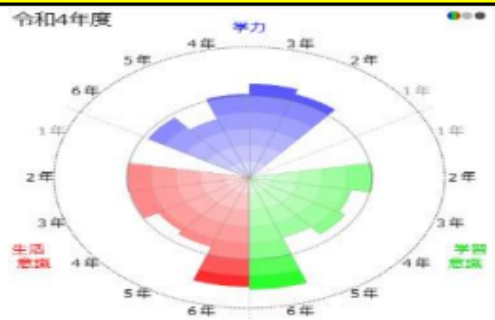
学力向上について



学力向上プラン

| 重点取組分野 | | 具体的取組 |
|--------|-----|---|
| 授業改善 | | ①子どもが主体的・対話的に学ぶ姿を具体化し、「対話」を通して学びを深めていくための学習の在り方を研究する。②教材研究の質を高める。(対話を通して思考を交流し広げていけるように、手立てを明らかにし用意する)③学力向上に資する学校共通の学び方を検討する。 |
| 担当 | A部会 | |

学力向上に関わる本校の状況



- (1) 学力に関わる児童の実態
(令和4年度 横浜市学力・学習状況調査 生活・学習意識調査より)
○学年や教科によって偏りが見られる。現3、4年生は市の平均を上回っているものの、現6年生はかなり下回っている。学年ごとに成果と課題が異なっているため、学年ごとの綿密な改善計画が必要であると考えます。
○学習・生活意識調査では、現3年生は、市の平均付近にあるものの、現4年生以上は市の平均を下回っている。教材研究の質を高め、対話を通して思考を交流し、広げていけるように手立てを明らかにすることで、学習意欲が向上し、学力の向上も期待できると考える。
- (2) これまでの取り組み状況
昨年度は子どもが主体的・対話的に学ぶ姿を具体化し、「対話」を通して学びを深めていくために、各学年で具体的行動プランを立てて取り組んだ。今年度は、昨年度までの成果を踏まえて各学年の課題に応じたプランを立てる必要がある。

今年度の目標

対話を通して思考を交流し、広げていけるように手立てを明らかにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

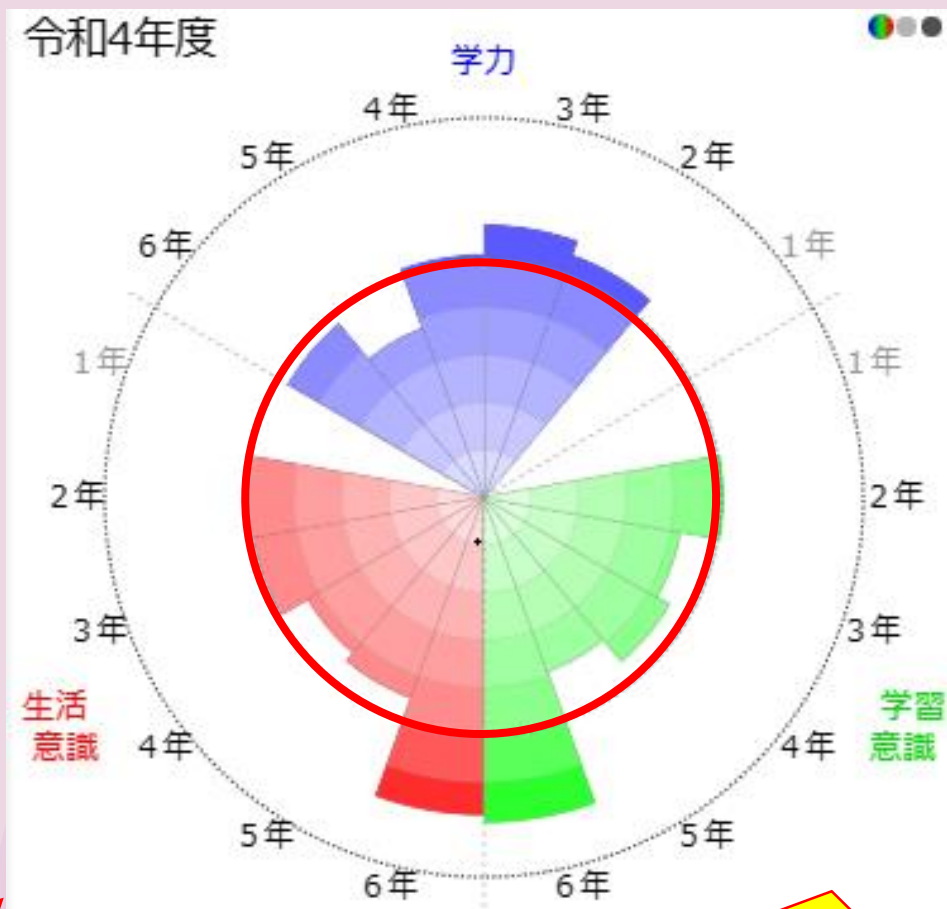
上半期

- (1年)ペア活動やグループ活動を積極的に取り入れて自分の考えを話す機会をつくる。
(2年)ペアやグループ学習など学習形態を工夫し、友達の考えに興味をもって聞いたり、自分の思いを友達に伝えたりする機会を増やす。
(3年)学習活動の中で、ペア・グループ・全体という形で、対話を効果的に取り入れる。特にグループでの対話を大切に、互いの考えのよさに気付けるようにする。
(4年)教科・領域に合わせて対話の形態を工夫し、日々の授業の中で話し合う展開を確立することで、子どもが友達と考えを共有するよさを感じられるようにする。
(5年)帰りの会の前に「振り返りジャーナル」を書く活動を行い、日々の学びを振り返る。それを通して友だちと協働的に学ぶことのよさを自覚化する。
(6年)友達の多様な考えに触れる機会をどの単元でも、子どもと立てた学習計画の中に位置付けることで、自分の考えが広がる楽しさを実感できるようにする。
(個別)クラスに慣れ、難しかったり困ったりしたことを担任に伝えることで、自分から話す力や解決への見通しがもてるようにする。

下半期

- (1年)ペア活動やグループ活動を積極的に取り入れて、自分の考えを話す機会をつくる。他者の考えを知り、自分の考えを広げる。
(2年)対話のよさに気付けるような授業づくりをすることで、子どもたちが対話を通して友達の考えのよさに気づき、自分の考えに生かせるようにする。
(3年)対話を効果的に取り入れ、意見や考えを交流できるようにする。その中で、互いの意見や考えのよさに気付けるようにする。
(4年)話合いて身に付けた力を明確にすることで対話の必要性を感じ、授業の中で子どもたち自身が設定して、考えを深めたり広げたりできるようにする。
(5年)国語で「対話する」学習を行う。その学習を通して問いの立て方や考えの整理の仕方、互いの考えを尊重する態度を養い、他教科・他領域で生かせるようにする。
(6年)対話の必然性を単元の中に入れることで、学習計画の中で「対話」を通して学びを深めていく場面を子どもたち自身で設定できるようにしていく。
(個別)様々な学習を積み重ねる中で、発表したり思いを伝えたりする場を増やす。

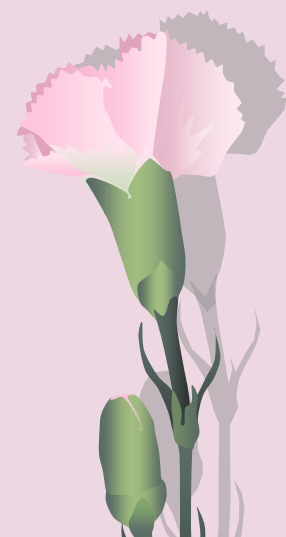
学力・学習状況調査の結果から



※令和4年度実施

生活意識・・・朝食の有無、一日の家庭学習や読書の時間、自分のことや人とのかかわりについて等

学習意識・・・学習に進んで取り組んでいるか、自分の考えを相手に分かりやすく伝えようとしているか、各教科への取り組み方等



学力の概要と要因の分析

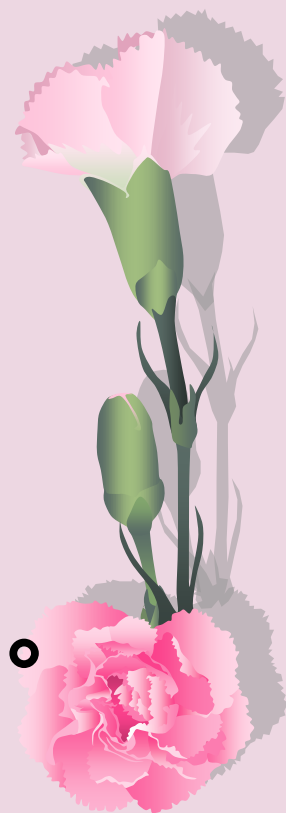
○学年によって偏りがある。

○生活・学習意識は、横浜市の平均を下回っている傾向にある。

→各学年ごとに成果と課題がある。

そのために

各学年ごとに授業改善の必要がある。



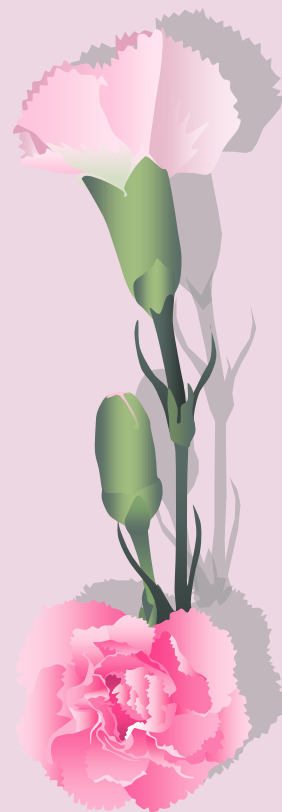
今年度の各学年の具体的取組

目標を実現するための具体的行動プラン

| | |
|-----|---|
| 上半期 | <p>(1年)ペア活動やグループ活動を積極的に取り入れて自分の考えを話す機会をつくる。</p> <p>(2年)ペアやグループ学習など学習形態を工夫し、友達の考えに興味をもって聞いたり、自分の思いを友達に伝えたりする機会を増やす。</p> <p>(3年)学習活動の中で、ペア・グループ・全体という形で、対話を効果的に取り入れる。特にグループでの対話を大切に、互いの考えのよさに気付けるようにする。</p> <p>(4年)教科・領域に合わせて対話の形態を工夫し、日々の授業の中で話し合う展開を確立することで、子どもが友達と考えを共有するよさを感じられるようにする。</p> <p>(5年)帰りの会の前に「振り返りジャーナル」を書く活動を行い、日々の学びを振り返る。それを通して友達と協働的に学ぶことのよさを自覚化する。</p> <p>(6年)友達の多様な考えに触れる機会をどの単元でも、子どもと立てた学習計画の中に位置付けることで、自分の考えが広がる楽しさを実感できるようにする。</p> <p>(個別)クラスに慣れ、難しかったり困ったりしたことを担任に伝えることで、自分から話す力や解決への見通しがもてるようにする。</p> |
| 下半期 | <p>(1年)ペア活動やグループ活動を積極的に取り入れて、自分の考えを話す機会をつくる。他者の考えを知り、自分の考えを広げる。</p> <p>(2年)対話のよさに気付けるような授業づくりをすることで、子どもたちが対話を通して友達の考えのよさに気付き、自分の考えに生かせるようにする。</p> <p>(3年)対話を効果的に取り入れ、意見や考えを交流できるようにする。その中で、互いの意見や考えのよさに気付けるようにする。</p> <p>(4年)話し合いで身に付けた力を明確にすることで対話の必要性を感じ、授業の中で子どもたち自身が設定して、考えを広げたり深めたりできるようにする。</p> <p>(5年)国語で「対話する」学習を行う。その学習を通して問いの立て方や考えの整理の仕方、互いの考えを尊重する態度を養い、他教科・多領域で生かせるようにする。</p> <p>(6年)対話の必然性を単元の中に入れることで、学習計画の中で「対話」を通して学びを深めていく場面を子どもたち自身で設定できるようにしていく。</p> <p>(個別)様々な学習を積み重ねる中で、発表したり思いを伝えたりする場を増やす。</p> |

今後・・・
実践・検証・改善

豊かな心の育成について



豊かな心の育成推進プラン

| 重点取組分野 | | 具体的取組 |
|--------|-----|---|
| 道徳教育 | | ①本校の合言葉を意識し、学校教育全体を通じた「豊かな心」の育成を目指す。②ペア学年活動や学校行事を通して豊かな感性や情操を育むとともに、自他を尊重する態度を養う。③対話を通して、楽しみながらコミュニケーション能力を高める活動に取り組み、認め合い、励まし合う心を育む。④道徳科の授業では、対話を通して多面的、多角的な考え方に気付くとともに自己を見つめることができるようにする。 |
| 担当 | B部会 | |

豊かな心に関わる本校の状況

令和4年度実施の児童アンケートと考察

<考察>

●No.1:約90%の児童が「学校の合い言葉をめざすことができている。」と感じている。

⇒様々な教育活動の際に合言葉を意識したためあてづくりを行うなど、児童が合い言葉を大切にし、学校教育目標を意識できるようにする。

●No.2~No.5:ペア学年活動や運動会、ミニスクールコンサートを通して、自分や友達のよさ、協力するよさ、一生懸命取り組むよさなどを感じ、心を成長させることができていると感じている児童が多い。

⇒今後も児童の心を成長させる活動に継続して取り組む。

●No.6~7:道徳の授業では、友達と考えを聞き合ったり、自分の生活を振り返ったりすることについて、11%の児童がそう思わないと感じている。

⇒道徳の授業では、友達との対話を通して多角的・多面的な考えに触れたり、自己を見つめ直したりできるようにする。

●No.8~9:安心して学校生活を送っていると感じている児童は92%だが、友達のこと困ったときは、話したり誰かに相談したりして解決できていると感じている児童は84%と他項目に対し、低くなっている。

⇒誰もが安心できる学校を目指し、更に児童に寄り添った支援に努めていく。

学校アンケート～児童集計(令和5年1月実施)

| No. | 項目 | そのうち やが そう思う | その 思わない | 思わない | |
|-----|--|--------------------|------------|------|----|
| 1 | 学校の合言葉「元気いっぱい、やさしいいっぱい、笑顔いっぱい、心輝く嬉小キッズ」を目指している。 | 51% | 40% | 8% | 2% |
| 2 | ペア学年の活動や運動会、ミニスクールコンサートを通して、友達と協力したり、一生懸命に取り組んだりして心を成長させている。 | 71% | 23% | 5% | 1% |
| 3 | ここにペア学年の活動では、ペア学年の人と楽しく過ごすことができている。 | 80% | 16% | 3% | 1% |
| 4 | 学級活動やここに学年活動で、友達と活動することは楽しいです。 | 79% | 15% | 4% | 1% |
| 5 | 自分や友達のよさや大切さを感じています。 | 68% | 26% | 5% | 1% |
| 6 | 道徳の授業では、友達と考えを聞き合い、自分の生活を振り返ることができています。 | 50% | 40% | 8% | 3% |
| 7 | どの友達に対しても、公平に接しています。 | 51% | 42% | 5% | 2% |
| 8 | 友達のことでは、安心して学校生活を送っています。 | 67% | 25% | 6% | 3% |
| 9 | 友達のこと困ったときは、話したり誰かに相談したりして、解決できています。 | 47% | 37% | 9% | 7% |

今年度の目標

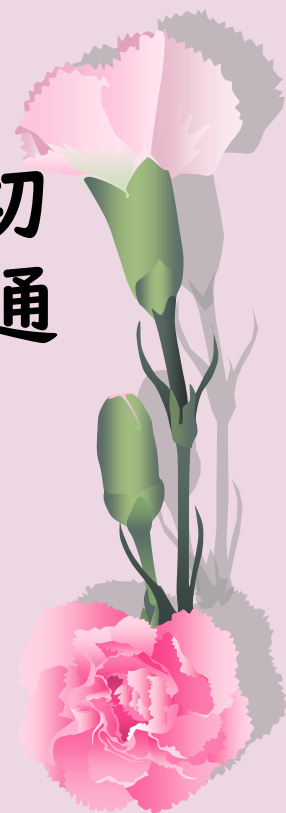
学校行事や学校生活、道徳の時間の授業実践を通して豊かな心を育むとともに、児童主体で人権・福祉の意識を高める活動に取り組み、児童が自分事として自他を大切するよさを感じられるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

| 上半期 | 下半期 |
|--|--|
| <p>《上半期》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動：児童（ハッピースマイル委員会）を中心にあいさつ運動を実施し、温かい心を広めるあいさつのよさを伝える活動を行う。 ・横浜子ども会議での話し合いを生かした活動：代表者（ハッピースマイル委員長）が会議で学んだことや今後の取組について、全校児童に発信する。 <p>《通年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業実践：友達との対話を通して多角的・多面的な考えに触れたり、自己を見つめ直したりできるようにする。 ・ミニスクールコンサート：児童が自他のよさ、協力するよさ、一生懸命取り組むよさを感じられるようにする。 ・スマイル掲示板：児童（福祉委員会）が主体となり、自分や友達を大切にするよさや人権、福祉について掲示を作成し、全校児童に向けて発信する。 | <p>《下半期》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会：全校で協力するよさや一生懸命取り組むよさ、自他のよさに気付くことができるようにする。 ・人権月間の取組：児童（福祉委員会）が主体となり、いじめをなくし、自他を大切にすることのよさについて集会等を通して全校に発信する。 ・ユニセフ募金活動：児童主体（福祉委員会）で、人権や福祉についての意識を学校外にも向け、友達も学校も世界でも支え合うよさについて発信する。 <p>《通年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア学年活動や全校集会：児童（ペア学年リーダー・集会委員会）を中心に取り組み、同学年や異学年の友達と楽しく関わるよさを感じられるようにする。 ・年3回の児童アンケート：児童が安心して学校生活を送るため、アンケートを実施し、児童が困ったことを相談しやすい環境をつくる。 ・横浜プログラムに取り組み、楽しみながら子どもたちの社会的スキルを育む。 |

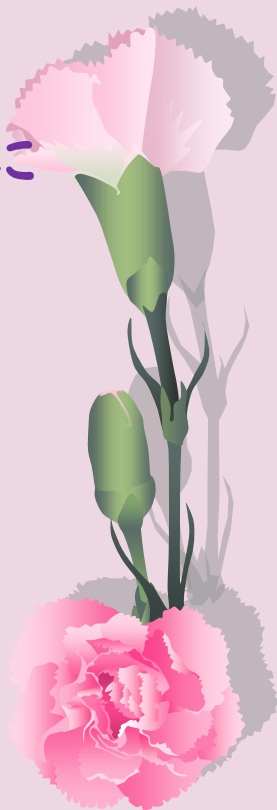
重点取組目標

- ❁ 本校の合言葉を意識し、学校教育活動全体を通じた「豊かな心」の育成を目指す。
- ❁ 学校生活の中で互いを尊重し、自他を大切に
する気持ちや人権意識を高める取組を通して、
誰もが安心できる学校を目指す。



4つの指針

- 1 友達の意見を聞き自分と違う考えを認めたり、物事を多角的多面的に見たりする力
道徳の時間、特別活動など
- 2 相手の気持ちに寄り添って考えたり、行動したりする力
にこにこペア学年活動、特別活動など
- 3 自尊感情や人権意識を高め、自分のよさや友達のよさに気づき、思いやりのある行動ができる力
道徳の時間、特別活動、社会的スキル横浜プログラムなど
- 4 豊かな情操を養い、美しいものを美しいと感じられる心
児童による文化的な活動
(体験活動・ミニスクールコンサート・作品展等)



文化的活動

にこにこ
ペア学年活動

特別活動

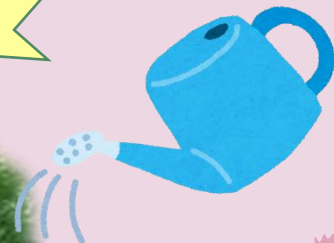
豊かな心

道徳の時間

人権教育

児童指導

特別支援教育



具体的な取組

児童指導

年間目標に『自分からあいさつしよう』を掲げ、他者と主体的に関わり、コミュニケーションを取ることのよさを意識付けていく。

道徳の時間

学校教育全体で行う道徳教育の要の時間として、他者との対話を通して多角的・多面的な見方、考え方にふれるとともに、自己を見つめ直す授業づくりを心掛ける。



具体的な取組

特別活動の時間・人権教育

人権教育の視点を年間を通して取り入れ、思いやりの心や他者を尊重する人権意識を育む。日常の学校生活の中で友達を思いやる姿や相手を尊重する姿を教師が称賛したり、友達同士で認め合ったりする時間を大切にする。

また、人権月間では福祉委員会を中心に人権集会を開き、日常の中の場面を取り上げながら互いを尊重し、差別をしない心を育てる。



具体的な取組

🌸 特別支援教育

支援員や特別支援教室「笹っ子の時間」などを活用し、一人ひとりが自信をもって学校生活を送れるように支援し、自尊心を高めていく。

🌸 文化的な活動

行事やミニスクールコンサート、音楽や図工等の学習を通して豊かな情操を育む。また、校内作品展や旭区巡回作品展の鑑賞などを通して豊かな心を育てる。

🌸 にこにこペア学年活動

ペア学年集会やにこペアウィークなど、様々な活動をする中で、相手に寄り添って考え、行動する心を育てる。



昨年度の児童アンケートからの考察

学校アンケート～児童集計(令和5年1月実施)

| No. | 項目 | そう思う | やや そう思う | そう 思わない | 思わない |
|-----|---|------|------------|------------|------|
| 1 | 学校の合言葉「元気いっぱい、やさしいいっぱい、笑顔いっぱい、心輝く笹小キッズ」を目指すことができています。 | 51% | 40% | 8% | 2% |
| 2 | ペア学年の活動や運動会、ミニスクールコンサートを通して、友達と協力したり、一生懸命に取り組んだりして心を成長させることができています。 | 71% | 23% | 5% | 1% |
| 3 | にこにこペア学年の活動では、ペア学年の人と楽しく過ごすことができています。 | 80% | 16% | 3% | 1% |
| 4 | 学級活動やにこにこ学年活動で、友達と活動することは楽しいです。 | 79% | 15% | 4% | 1% |
| 5 | 自分や友達のよさや大切さを感じています。 | 68% | 26% | 5% | 1% |
| 6 | 道徳の授業では、友達と考えを聞き合い、自分の生活を振り返ることができています。 | 50% | 40% | 8% | 3% |
| 7 | どの友達に対しても、公平に接しています。 | 51% | 42% | 5% | 2% |
| 8 | 友達のことで、安心して学校生活を送っています。 | 67% | 25% | 6% | 3% |
| 9 | 友達のことで困ったことは、話をしたり誰かに相談したりして、解決できています。 | 47% | 37% | 9% | 7% |

学校アンケートや職員年度末反省より成果と課題を捉え次年度の取組に生かすことでより豊かな心の育成を目指します。

<考察>

●No.1:約90%の児童が「学校の合い言葉をめざすことができています。」と感じている。

➡様々な教育活動の際に合言葉を意識したためあてづくりを行うなど、児童が合い言葉を大切に、学校教育目標を意識できるようにする。

●No.2～No.5:ペア学年活動や運動会、ミニスクールコンサートを通して、自分や友達のよさ、協力するよさ、一生懸命取り組むよさなどを感じ、心を成長させることができていますと感じている児童が多い。

➡今後も児童の心を成長させる活動に継続して取り組む。

●No.6～7:道徳の授業では、友達と考えを聞き合ったり、自分の生活を振り返ったりすることについて、11%の児童がそう思わないと感じている。

➡道徳の授業では、友達との対話を通して多角的・多面的な考えに触れたり、自己を見つめ直したりできるようにする。

●No.8～9:安心して学校生活を送っていると感じている児童は92%だが、友達のことで困ったときは、話したり誰かに相談したりして解決できていると感じている児童は84%と他項目に対し、低くなっている。

➡誰もが安心できる学校を目指し、更に児童に寄り添った支援に努めていく。

いじめ未然防止・早期発見に向けた取組<年間計画>

| 月 | 取組内容 | |
|---------|---|--|
| | 児童・学校 | 保護者・地域 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画と重点指導内容等の確認 ・児童情報引継ぎ ・児童理解研修(「いじめ防止基本方針」共通理解等) ・学校生活の約束の確認(笹小スタンダード等) | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止基本方針ホームページ掲載 ・保護者面談 |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ早期発見のための生活アンケート実施(記名式)」⇒教育相談 ・ネットトラブル防止教室実施(旭警察署) ・中学校ブロック専任定例会① | <ul style="list-style-type: none"> ・地域訪問 ・学校紹介ホームページ掲載 |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・YPアセスメント実施① | <ul style="list-style-type: none"> ・学家地連総会 ・学校運営協議会 |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動週間 ・横浜子ども会議(中学校ブロック) ・横浜プログラム(SOSの出し方教育プログラム)の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談 ・地区懇談会 |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・横浜子ども会議(旭区交流会) | |
| 9 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・専任教諭夏季研修に基づく校内研修 | <ul style="list-style-type: none"> ・学級懇談会 |
| 11 | <ul style="list-style-type: none"> ・YPアセスメント実施② ・いじめ解決一斉キャンペーン実施(無記名式アンケート) ⇒教育相談 ・中学校ブロック専任定例会② | |
| 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・人権月間・いじめ防止月間の取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談 |
| 1 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止、防犯、ネットいじめ等に関する安全教室実施 ・校内いじめアンケート実施⇒教育相談 ・幼稚園・保育園・中学校との引継ぎ ・中学校ブロック専任定例会③ | <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・年度の振り返り、新年度への引継ぎ ・笹小スタンダード、いじめ防止基本方針の見直し | <ul style="list-style-type: none"> ・学年・学級懇談会 ・学家地連総会 |
| 年間 | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止対策委員会(月1回・随時)・横浜プログラムの実施 | |

豊かな心を育む（いじめ未然防止・早期発見）のための取組

職員研修

いじめ・人権に関する研修を年間を通して実施

共通理解

- ・ 笹野台小学校いじめ防止基本方針について共通理解

アンケート調査

- ・ 生活に関するアンケート
- ・ YPアセスメントシート

豊かな心を育む取組

- ・ 子どもの社会的スキル「横浜プログラム」
- ・ 各学級での取り組み（認め合い・係活動等）

保護者面談

- ・ 「児童の思いや様子」・「豊かな心を育む取組」等について情報共有。

豊かな心を育む（いじめ未然防止・早期発見）のための取組 4月～8月

| 月 | 内容 | | 留意点 |
|--|---------------|---|---|
| 4月 | 共通理解 | いじめ防止基本方針について職員で共通理解を図る。 | 前年度3月職員会議にて内容を検討し改訂する。 |
| 4月～5月 | 保護者面談 | 家庭と学校での児童の様子を共有し、困りごとや実態を把握する。 | ※ 児童が嫌な思いをしていることが分かったときは、本人に寄り添い対応する。 |
| 5月 | 生活アンケート 第1回 | 第1回「生活に関するアンケート」(記名式)実施 →結果の確認(実施日のうちに) →必要に応じて教育相談 | 問1～問4:③④を選択した児童に聞き取り 問5～問11:①②を選択した児童に聞き取り 問12:①を選択した児童に聞き取り ※ 児童が嫌な思いをしていることが分かったときは、本人に寄り添い対応する。 |
| 適宜 | | 臨時いじめ防止対策委員会(アンケート結果に応じて実施) →児童に事実確認・必要に応じて話し合い、保護者連絡 | |
| 6月～ | セサメント 第1回 YPア | 第1回YPアセスメント実施 →データ入力 →分布図作成・読み取り(専科・学年職員で共有) →学級風土チェック(専科・学年職員で共有) | ※ 学年で各クラスの課題を検討して見出し、その克服のための手立てを計画する。 |
| 「第1期 豊かな心を育む取組」6月～11月 (第2回YP実施までの間) | | | |
| 学年職員で計画した各学級ごとの手立てを実施する <例> ・子どもの社会的スキル・対話力を伸ばす「横浜プログラム」の実施 ・年間を通して帰りの会で友達の素敵な姿を認め合う時間を設ける ・係活動の時間を工夫し、一人ひとりが活躍できる場、認め合える場をつくる ・学級の「〇〇の達人」など、子どもの自己肯定感を高める活動を行う ・YPの結果から抽出児童を設定し、継続的な声掛けや支援を行う | | | |
| 7月 | 保護者面談 | 7月上旬の5日間で担任が保護者と面談を実施する。 児童の様子・豊かな心を育む取組等について情報共有する。 | ※ 児童が嫌な思いをしていることが分かったときは、本人に寄り添い対応する。 |
| 7月 | 横浜プログラム | 横浜プログラム「SOSの出し方教育プログラム」実施 →児童がSOSを出したり、友達のSOSを受けたとき、適切に対処する力を高める。 | ※ 長期休暇前に取り組む。 ※ 学年で実施するプログラムを検討する。 |
| 8月 | 職員研修 | いじめに関する研修 ・具体的事案への対応の仕方(物の破損・悪口・暴力・SNSいじめ) ・傾聴訓練(聞き取りの留意点) | ※ 7月の専任教諭夏季研修を生かして校内で実施する。 |

豊かな心を育む（いじめ未然防止・早期発見）のための取組 9月～年度末

| 月 | 内容 | | 留意点 |
|---|---------|---|---|
| 9月 | 研修 | いじめに関する研修(事例研修) | ※ 横浜市教育委員会指導 |
| 11月 | 生活アンケート | 第2回「生活に関するアンケート」(無記名式)実施 →結果の確認(実施日のうちに) →必要に応じて教育相談 →データ入力 | ※ 児童が嫌な思いをしていることが分かったときは、本人に寄り添い対応する。 |
| 適宜 | | 臨時いじめ防止対策委員会(アンケート結果に応じて実施) →児童に事実確認・必要に応じて話し合い、保護者連絡 | |
| 11月 | YP第2回 | 第2回YPアセスメント実施 →データ入力 →分布図作成・読み取り(専科・学年職員で共有) →学級風土チェック(専科・学年職員で共有) | ※ 学年で各クラスの課題克服に向けた進捗状況を確認し、その実現に向けた道すじを再構築する。 |
| 「第2期 豊かな心を育む取組」11月～年度末 | | | |
| <p><例えば></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの社会的スキル・対話力を伸ばす「横浜プログラム」の実施 ・年間を通して帰りの会で友達の素敵な姿を認め合う時間を設ける ・係活動の時間を工夫し、一人ひとりが活躍できる場、認め合える場をつくる ・学級の「〇〇王」など、子どもの自己肯定感を高める活動を行う ・YPの結果から抽出児童を設定し、継続的な声掛けや支援を行う | | | |
| 11月 | 研修 | 人権・福祉に関する研修 | |
| 12月 | 保護者面談 | 12月上旬の5日間で担任が保護者と面談を実施する。 児童の様子・豊かな心を育む取組等について情報共有する。 | ※ 児童が嫌な思いをしていることが分かったときは、思いに寄り添い対応する。 |
| 12月 | 人権月間 | 人権月間の取組 児童が自他ともに大切に、誰に対しても差別することなく、公正公平に接することについて考える取組を行う。 | |
| 年度末 | 振り返り | 今年度の取組を振り返り、次年度への反省をまとめる。 | ※ いじめ防止基本方針についても見直しを行う。 |
| 通年 | 児童理解 | 毎月1回の「児童理解」の時間(いじめ防止対策委員会を含む)にて、全職員で児童の状況を共有し、対応方針について共通理解を図る。 | ※ 学校全体の様子や時期的な傾向に対する留意点についても共通理解を図る。 |

いじめ・人権に関する職員研修（令和4年度）

🌸 傾聴訓練（児童支援専任・児童指導部）

- ❖ 児童が話しやすい声掛け・環境づくり

🌸 いじめに関する研修（横浜市教育委員会指導）

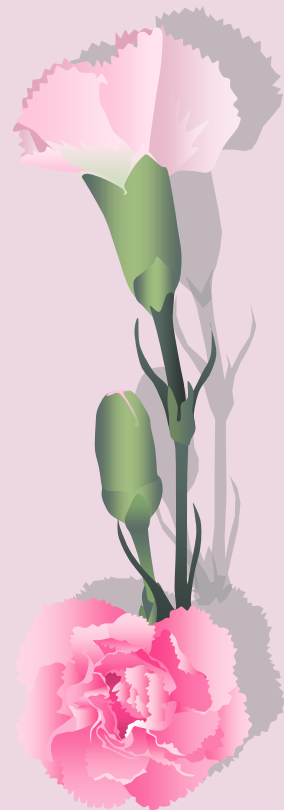
- ❖ 事例への対応の仕方

🌸 インクルーシブ教育（神奈川県教育委員会指導）

- ❖ 相互理解・共生・協働的な学び

🌸 YPアセスメント（児童指導部）

- ❖ アセスメントから児童の実態を捉える



いじめ・人権に関する職員研修 令和5年度

🌸 傾聴訓練（児童支援専任）

- ❖ 児童が話しやすい声掛け・環境づくり

🌸 いじめに関する研修（児童支援専任）

- ❖ 事例への対応の仕方

（物の破損・悪口・暴力・SNSいじめ）

🌸 YPアセスメントを生かした取組（児童指導部）

- ❖ 児童の実態把握からよりよい集団作りを行う取組

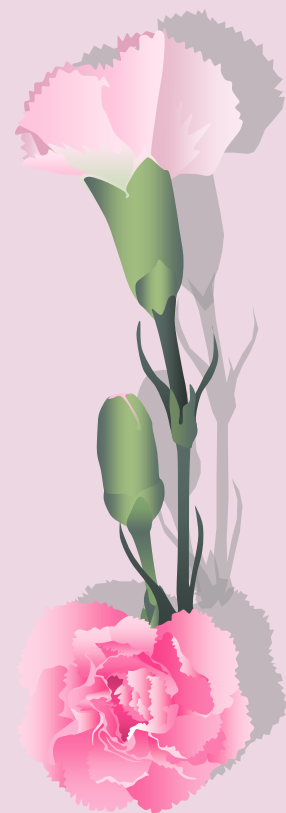
🌸 いじめに関する研修（横浜市教育委員会指導）

🌸 人権・福祉に関する研修（児童指導部）

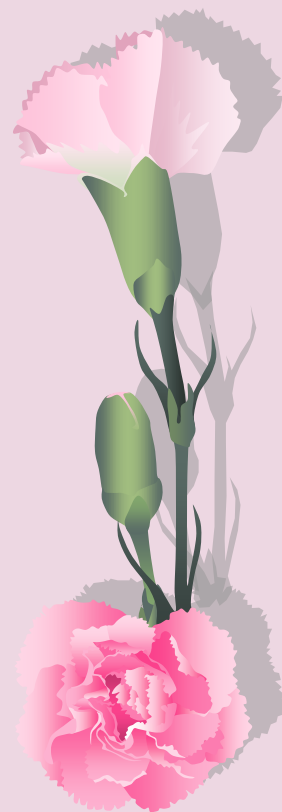


笹野台小学校 いじめ防止基本方針

 笹野台小学校いじめ防止基本方針 - 笹野台小学校 (yokohama.lg.jp)



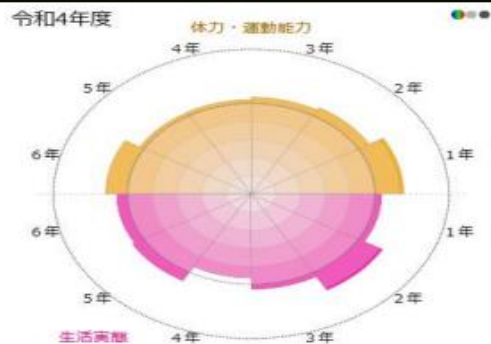
健やかな体の育成について



健やかな体の育成プラン

| 重点取組分野 | | 具体的取組 |
|--------|-----|---|
| 健康教育 | | ① ロング昼休みや長縄集会、任意参加の逃走中等を行い、楽しみながら体力向上に向かう取組を行う。 ② 体育の授業では、運動の特性や運動の楽しさを味わい「できた」を実感できるように、教職員向けの実技研修を実施したり、学習資料を共有したり、学習用具の工夫をしたりする。 ③ より良い食生活を実践できるように、食育月間や食育の日等に食に関する指導を重点的に行う。 |
| 担当 | C部会 | |

健やかな体に関わる本校の状況



(1) 健やかな体に関わる児童生徒の実態
令和4年度の新体カテストの結果を見ると、どの学年も横浜市平均を超えていることが分かる。また、「1日の運動量が30分以下」と回答している割合がほとんどの学年で5%以上少ないことも結果に出ている。このことから、日常的に運動をしていることが体力の向上にも繋がっていると考えられる。種目別に見てみると、立ち幅跳びの記録が市平均と比べて高く、長座体前屈の記録が市平均を下回っている。日常の遊びやスポーツクラブで瞬発力を高めている一方で柔軟性に課題があると考えられる。

(2) これまでの取り組み状況
本校では1年に1回、長縄集会を計画することで、普段休み時間に運動に取り組まない児童も運動する機会を促している。また、体育科学習で運動の特性に触れる楽しさを味わうような授業づくりを行うことで、児童が進んで運動に取り組めることを目指してきた。

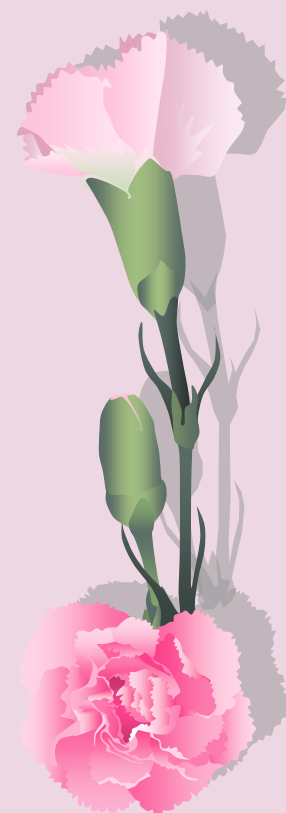
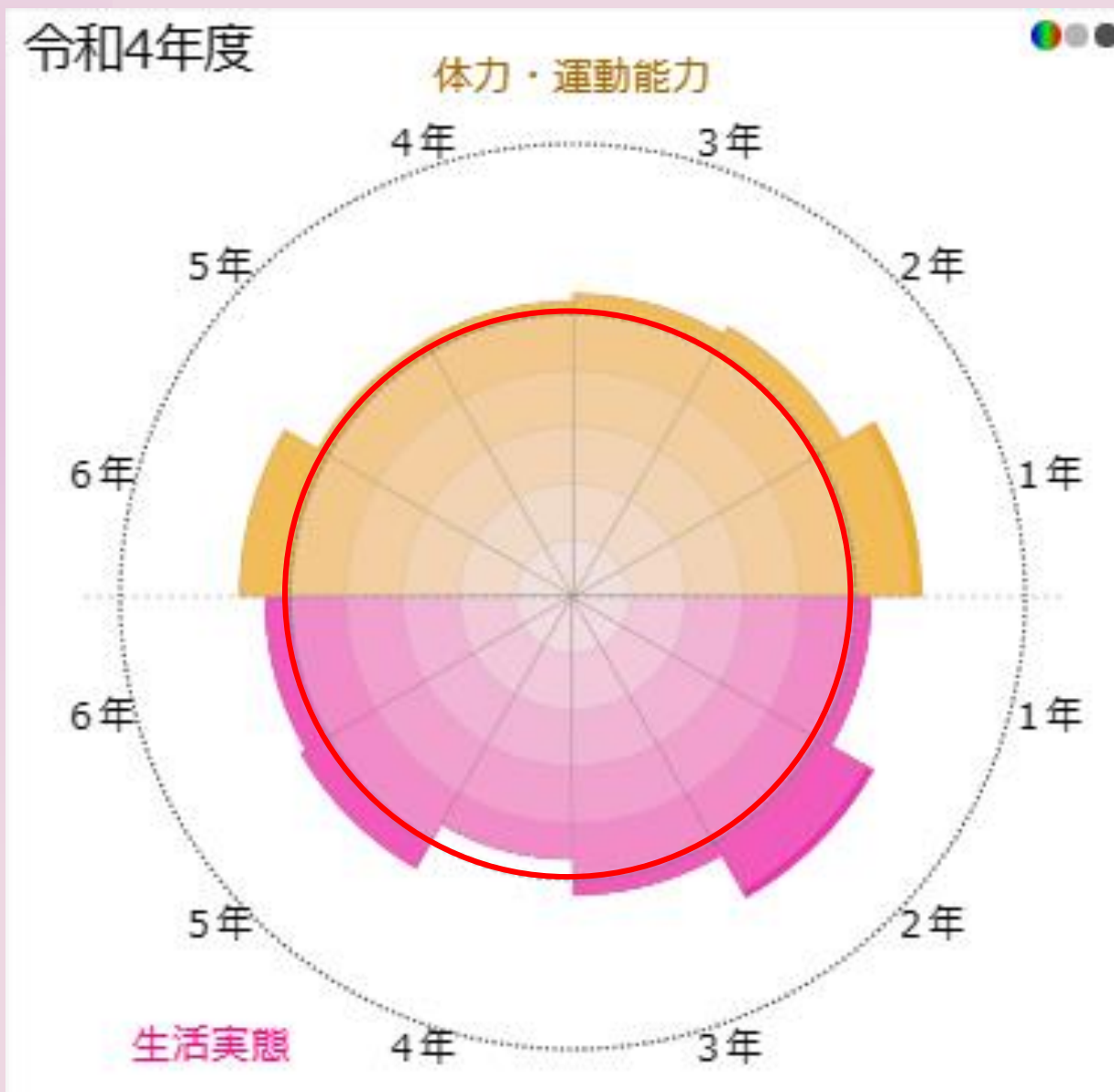
今年度の目標

体育科学習や委員会企画の集会活動を通して、一人ひとりが多様な動きを経験し、自ら進んで運動にもっと親しもうとする姿を目指します。

目標を実現するための具体的行動プラン

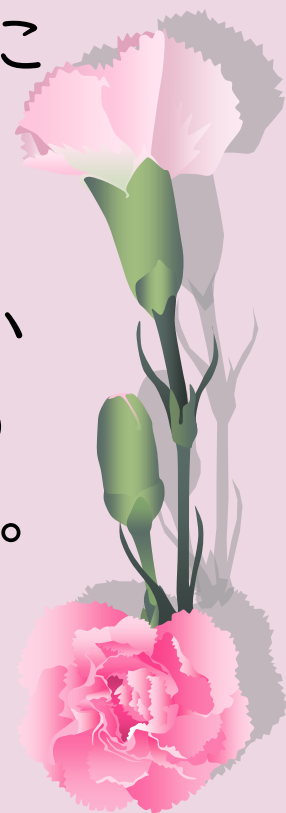
| | |
|-----|--|
| 上半期 | <p>《体育科・保健体育科での取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育科学習で子どもたちが運動の特性に触れる楽しさを味わうために、教職員で実技研修を実施し、教員自身が運動の楽しさを実感しながら、指導の仕方を学ぶ。 ・学習資料や学習用具を工夫し、子どもたちが「できる・わかる」楽しさを感じる手立てを打つことで、進んで学習に取り組めるようにする。 <p>《他教科での取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科や学活などで、食教育との関連を図り、学習の充実をめざす。 ・自らを大切にするとともに、希望や願い、向上心をもって体力向上や健康安全に向かえるように、道徳との関連を図っていく。 ・運動委員会で、多様な動きを引き出すような「笹小スポーツラリー」を計画し、児童が体を動かす楽しさを味わう機会を設ける。 ・年間を通して食育ワークに取り組み、自ら進んでよりよい食生活を実践できるようにする。 |
| 下半期 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動委員会では「ロング昼休みでのお薦めの遊び」「長縄集会」を計画し、年間を通して、楽しみながら運動に取り組むことができる雰囲気をつくるようにする。 ・食に関する指導の全体計画に基づき、給食週間や食育の日等に食に関する指導を重点的に行う。 ・食に関する指導を給食の時間だけでなく、教科・領域でも指導できるように、食に関する指導の全体計画を見直す。 |

体力・運動能力調査の結果から



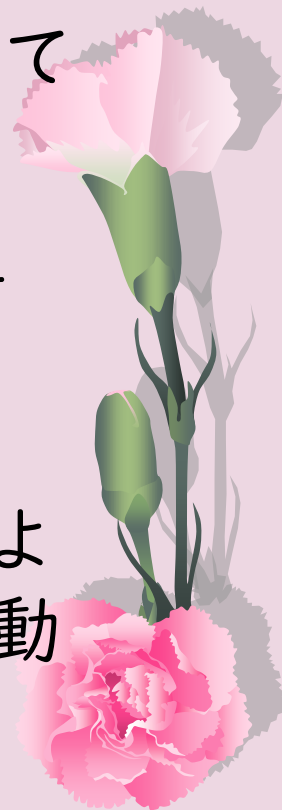
令和4年度 実施した結果から

- ❁ どの学年も横浜市平均を超えている。
- ❁ 「1日の運動量が30分以下」と回答している割合がほとんどの学年で5%以上少ないことも結果に出ている。このことから、日常的に運動をしていることが体力の向上にも繋がっていると考えられる。
- ❁ 運動面では、立ち幅跳びの記録が市平均と比べて高く、長座体前屈の記録が市平均を下回っている。日常の遊びやスポーツクラブで瞬発力を高めている一方で、柔軟性に課題があると考えられる。

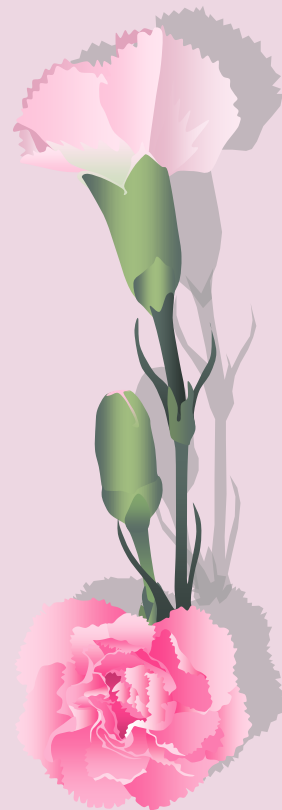


体力向上に向けての学校の取組

- ❁ 月に1度、ロング昼休み(30分遊び)の時間を設定して、友達と外で元気よく遊ぶ心地よさを味わえるようにしている。
- ❁ 年に1度、長縄集会を実施して、友達と励まし合って体力を向上する機会をつくっている。
- ❁ 体力テスト前には低学年が各運動のポイントを理解できるように、運動委員会の児童が教えて練習する機会をつくっている。
- ❁ 今年度は運動委員会で、多様な動きを引き出すような「笹小スポーツラリー」を計画し、児童が体を動かす楽しさを味わう機会を設ける。



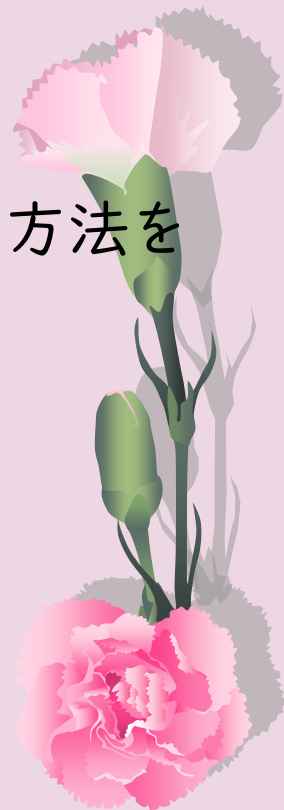
今年度の重点研究について



重点研究とは・・・

- ❁ 笹野台小学校で設定した研究テーマに沿って、授業研究を行う。
- ❁ 年間を通し、授業改善のための研究授業を行う。
- ❁ 外部講師を呼び、研究を深めるための協議を行う。
- ❁ 今年度は、昨年度までの国語科の学びを他教科に生かす方法を探っていく。

研究・研修は教職員の責務であり、わたしたち教職員は常に、
授業改善に取り組んでいます。



【令和4年度の成果】

①子どもの姿を具体化

単元に当てはめて具体化

どんな力を付け
ればよいか

どうすれば
できるかな

②何を学ぶのか

③どのように学ぶのか

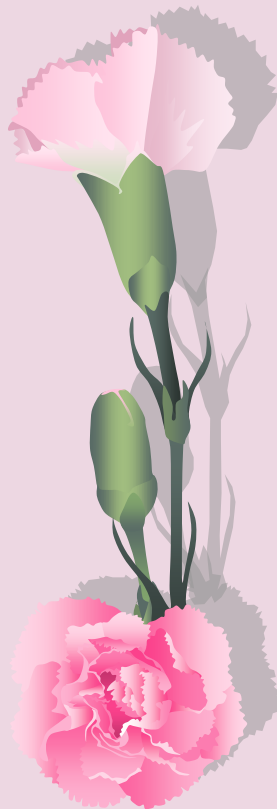
言葉レベルでの指導

ペア学習・グループ学習

モデルの提示

活動の見通し

子どもが主体的・対話的に取り組む



令和5年度 研究主題

『一人ひとりの子どもが
主体的・対話的に取り組む学習の在り方』

～言語活動を通して資質・能力を育成する授業づくり～



主体的・対話的に学ぶ姿「目指す子ども像」を系統的に設定

指導事項（資質・能力）を明確化・具体化

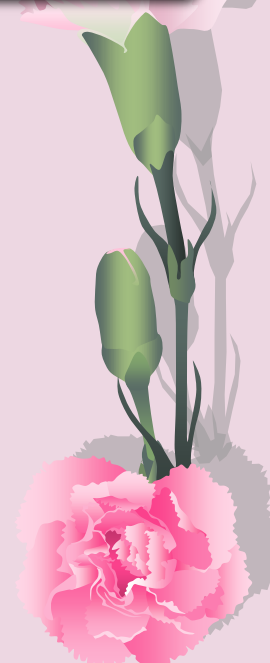
国語科だけでなく、他の教科
でも生かせるかな

適切な学習課題の
設定ができる

手立てが明らかになる

子どもたちが主体的・対話的に学ぶようになる

育てたい資質・能力が高まる



ご覧いただき
ありがとうございました。

